

公益財団法人日本サッカー協会 役職員の皆様へ

公益財団法人日本サッカー協会 会長 田嶋幸三

新型コロナウイルスの勢いが衰えませんが、慣れない在宅勤務で皆さん頑張っていることと思います。このメッセージを書こうと思ったのは、職員からメッセージを頂き、それに対する返事を考えていたところ、すべての役職員に“私の想い”を伝えたいと思ったからです。

2月26日（水）から3月15日（日）まで在宅勤務をすることと決め、現在に至っています。在宅勤務の制度が完備されていない中で、このような意思決定を行いました。2月25日（火）に、この1、2週間が新型コロナウイルスの蔓延を食い止める大切な時であるという政府方針が出されたからです。その前に、南アフリカからの日本渡航取りやめの意思表示を受け、スポーツ庁、外務省、南アフリカ大使館、コートジボワール大使館とも協議を行っていました。しかし、中国、韓国、中東、そして日本へもいよいよ感染者が増えて来ている中で、これ以上の感染者が出た場合、3月の試合はおろか、7月、8月のオリンピックにも影響する恐れがあると考えました。JFAとしてもここで新型コロナウイルスの蔓延をどうしても食い止めたいと強く思うとともに、改めて、**平和で安全で健康であるからこそサッカー、スポーツができる**と痛感しました。**サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する**という、私たち **JFA2005年宣言**の理念に鑑みても、イベント開催や収支よりも国民の健康を考えることは公益財団法人日本サッカー協会として、当然のことと考えました。

一方、様々なイベントが中止されたり、通常と異なる働き方をしたりする事で、いろいろな影響も出てきます。今回在宅勤務を導入した背景は、将来やらなければならないインフラ整備であるならば、多少整っていないくても、この機にやるのが我々組織にとっても大きなチャンスと考えたからです。その議論の中で、派遣社員やパートタイム勤務の方々にとって、働く時間がなくなるということは、すぐさまその収入に影響を及ぼすという意見も上がりました。それぞれの派遣元会社の考え方にもよりますが、100%満足いくかは別として、しかるべき対応をとるべきとの決断をしました。また、JFAとの契約がない方にとっても、JFAの業務の有無がその方の収入や生活に影響を及ぼすことは容易に想像できます。我々JFAに関わる人たちが安心、安全に業務を続けられること、家族をしっかりと守ることを考えていきたいと思っています。その中で特に皆さんにお願いしたいのは、業者さんに対する対応です。私たちのイベントが延期や中止になったことで、仕事がなくなるケースも出てきます。契約書の内容、商習慣に鑑みた対応をしなければならないでしょう。イベントが再開した際には、以前のようにしっかりと協力していく、ということを伝える必要があります。品格のある態度をとっていただきたいと思っています。このようなときこそ、私たち公益財団法人日本サッカー協会の存在意義、品格が問われていると思って下さい。

ピンチをチャンスに！

新型コロナウイルスの世界的な蔓延は、私たちJFAにとっても大きな打撃になるでしょう。そしてこの状況がいつまで続くか、先が見えていない現状でもあります。経済的なマイナスのインパクトは間違い

なく生じてきます。しかし、このピンチを乗り越えることは、大きなプラス面も私たちにもたらすと確信しています。それは以下の点です。

- 1) 改めて JFA2005 年宣言の理念からも、平和で安全で健康であることが私たちの活動のベースであるということ、役職員すべてが再確認することができた。
- 2) 将来必要であった、「健康経営」につながる在宅勤務制度の導入に拍車がかかる。
- 3) いつも目の前の業務に追われている皆さんが、少し考える時間を持つことができるようになって、従業員調査でも課題になっていた、業務量、業務内容、業務の進め方に対して、新たな提案や修正を行うことができるチャンスにもなる。在宅勤務が明けた時には、こうあったらいい、ここはこうすべきだといった議論が各部で、または、私に対しても、どんどん提案できるようになると期待しています。今すぐでも構いません。
- 4) 代表チームの強化のみならず、多くのクラブ、チームの方々にとっても、マイナスの面が大きいと思います。しかしながら、この影響は、どの国、クラブ、チームにとっても等しく降り掛かってくるものです。この中でいかに工夫をし、このピンチをチャンスに変え、チームの団結力を高めていくことが大切です。このことは、私たち日本人が最も得意とするところですが、言い訳にすることではありません。より成長することができるよう、努力して行きましょう。ここで日本の真価が問われます。
- 5) 日本のサッカー界は、99 年の歴史の中で、これまでも多くの困難を乗り越えてきました。日本サッカー協会設立早々に起きた関東大震災、第二次世界大戦、数度に渡る経済恐慌、SARS、東日本大震災、その他多くの自然災害や経済的な難局を乗り越えてきました。私が経験した中でも、それを乗り越える時に、多くの人材が育っています。この危機を皆さんと一緒に乗り越えるということは、私たち一人ひとりの成長に、ひいては、日本のサッカー界全体の組織の成長に、間違いなくつながると信じています。

この危機がいつまで続き、どのような大きなものになるか、今現在ははっきりとはわかりません。このような時こそ、役職員の皆さん、そして、日本のサッカーファミリーの皆さんと団結し、この困難を乗り越えて行きたいと思います。そうすることが、マイナスの経済的インパクト等を凌駕するプラスに転じると信じています。

協会で皆さんとまた会える日を、そして、日本中で、笑顔でサッカーをできる日が戻ってくることを楽しみにしています。

2020 年 3 月 4 日